平成 30 年度

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

ＣＳＷ活動報告

所沢市社会福祉協議会

地域福祉推進課

目　　次

■はじめに …… 1

■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは …… 2

■CSW 活動報告

Ⅰ　相談集計表 …… 3

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援） …… 6

Ⅲ　地域の実態把握及び支援 …… 11

Ⅳ　地域のネットワーク化 …… 13

■まとめ

Ⅰ　データから見る考察 …… 14

Ⅱ　CSW 活動のまとめ …… 14

■参考：地域アセスメントシート …… 17

はじめに

急速な少子・高齢化、生活様式や価値観の多様化等により、暮らしや地域社会が大きく変容し、社会からの孤立、生活困窮、虐待、権利侵害等、地域における生活課題が複雑化する中、地域共生社会の実現が急務の課題となっています。そうした中、複雑化した課題をもつ世帯を包括的に支援するとともに、支え合いのまちづくりを地域住民、関係機関・団体の皆様と進める専門職（コミュニティソーシャルワーカー（CSW））の配置が全国的にも広がりつつあります。

所沢市社会福祉協議会においても、地域福祉を推進する中で CSW の必要性を認識し、平成 27 年度にモデル的に所沢地区に 1 名、平成 28 年度からは市内全行政区に CSW を配置しました。

CSW は担当地区の個別支援対応を進めながら、『第４次地域福祉活動計画in所沢　ところ WITH プラン』に基づき、地域住民、関係機関・団体の皆様とともに支え合いのまちづくりや仕組みづくりに取り組んできました。

この CSW について理解を広げることが、所沢市の地域福祉の向上に資すると捉え、CSW の活動実践を具体的に「見える化」したものがこの報告書です。CSW が日々地域の中で向き合っている課題や取り組んでいる活動に、皆様の関心を寄せていただけると幸いです。

社会福祉法人　所沢市社会福祉協議会

CSW 報告書発行に寄せて

所沢市社会福祉協議会　地域福祉活動推進会議

委員長　　田中　英樹

この度、所沢市社会福祉協議会では、平成 30 年度の「CSW 活動報告」を発表した。その内容は、個別の相談集計、地域別支援内容、地域の実態把握及び支援、地域のネットワーク化、地域活動支援と CSW 活動を 5 つの切り口から集計し、分析している。その上で、<まとめ>として、データに基づいた考察、CSW 活動の見える化、事例に基づく個別相談の対応や地域課題への取り組み対応、そして地域アセスメントシートの作成を報告している。

筆者は、所沢市の地域福祉活動計画である“ところ WITH プラン”を作成し、進捗管理する会議体（地域福祉活動推進会議）の立場から、個別支援を通じた住民主体の地域づくりに日々活動するコミュニティソーシャルワーカーの役割を、その活動の成果と共に明らかにしていく内発的な作業を以前から期待していた。

現場の CSW たちは、自己分析的に成果（アウトカム）の可視化に挑戦した。その内容の詳細は報告書に譲るが、若干のコメントを述べておきたい。

CSW の配置では、豊島区民社会福祉協議会が先に成し遂げた常勤、専任、複数、活動圏域配置の 4 原則をこの所沢市社会福祉協議会でも是非とも実現したいと常々考えている。そのためには、理念に増して活動の実績を示すことが一番有効であろう。日々の業務集計という地道な作業を積み重ねることで、活動の全体像が見えてくる。相談や業務内容の分析的な整理が出来、どこに成果が生まれ、どこが課題や改善点なのかが見えてくる。地域アセスメントも実験的ではあるが意欲的である。

活動報告を文字で示した CSW たちは、自分たちの活動実績に自信を持つことが出来たと考える。今後とも、個々人の資質や能力を高め合い、相互に研鑽に励み、さらに高い極みをめざすことに期待したい。

■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

個別の支援を行いながら、ニーズの共通性に着目し、地域の生活課題の解決に向け、住民と協働して新しい仕組みづくりにとりくむ専門職です。

◎市内11行政地区ごとに担当CSWを配置しています。

CSW の主な活動

●個別相談・支援

誰にも助けを求められずに、社会的に孤立している人や制度の狭間で支援を受けられない人など、様々な生活課題を抱える世帯への相談支援を行っています。こどもと福祉の未来館 1 階に設置する福祉の相談窓口担当職員とともに支援にあたる他、必要に応じて福祉、保健、教育等関係機関等と連携して支援しています。

【生活上の様々な困りごと・課題の例】

- 離職による生活困窮
- 加齢による体力低下や認知症のため身の回りのこと（買物・掃除・ゴミ出しなど）ができなくなる
- たくさんの問題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- 長い間自宅に引きこもっていて、一歩を踏み出せない
- 介護・育児（ダブルケア）によるストレス、虐待
- 定年退職後、何も楽しみ・生きがい（趣味など）がない　等

●アウトリーチにより地域の課題を把握する

地域で開催される会議体や相談会に参加するとともに、住民懇談会等を開催して、地域課題の把握に努めています。

【会議体や相談会の例】

- 地域づくり協議会・地区社協との連携・協働
- 地域ケア会議への参加
- 住民懇談会など福祉情報交換会の開催
- 各地区身近な相談窓口の設置等

●地域住民の方が実施する支援活動等につなぐ

住みなれた地域で安心して暮らせるように、
住民活動による支援につながるようサポートしています。

【CSW がつなぐ住民活動の例】

- ボランティア活動・サークル活動等
- 高齢者サロン・子育てサロン・多世代型サロン等
- こども食堂・学習支援等

●居場所や支え合いのしくみづくり

地域の住民の方と協働しながら、地域の中にちょっと立ち寄れてほっとできる居場所や、こどもの居場所づくり等の立ち上げや運営をサポートしています。

■CSW活動報告

CSWは、誰もが安心して地域で暮らせるように民生委員・児童委員やボランティア等の各種関係機関・団体の皆様や自治会・町内会、地域づくり協議会等の皆様と連携し、居場所づくりや支え合いのしくみづくりを進めました。

Ⅰ　相談集計表

この表は平成30年4月1日から平成31年３月31日にCSWが対応した相談件数、相談対象者の種別

【 総合的福祉相談（個別相談支援、被災者支援） 】

	延べ件数
個別相談支援	1,721
被災者支援	24
その他	202
合計	1,947

【 相談対応件数 】

	延べ件数
新規相談	478
継続相談	1,469
合計	1,947

【 対象者種別 】

	延べ件数	構成比
高齢者	672	34.5%
障害者	335	17.2%
子ども	209	10.7%
生活保護	169	8.7%
施策利用なし	76	3.9%
団体等	19	1.0%
その他	467	24.0%
合計	1,947	100.0%

【 相談方法 】

	延べ件数	構成比
電話相談	844	43.4%
訪問	481	24.7%
来所	195	10.0%
相談会	96	4.9%
出先にて	193	9.9%
その他	138	7.1%
合計	1,947	100.0%

【 相談者 】

	延べ件数	構成比
本人	1,119	57.5%
民生委員	116	6.0%
家族	171	8.7%
関係機関	386	19.8%
近隣住人	83	4.3%
その他	72	3.7%
合計	1,947	100.0%

【 対象者 】

	延べ人数	実人数	構成比
0～9歳	59	16	3.0%
10～19歳	124	8	6.4%
20～29歳	55	8	2.8%
30～39歳	27	5	1.4%
40～49歳	77	15	4.0%
50～59歳	260	33	13.4%
60～64歳	41	6	2.1%
65～70歳	195	12	10.0%
70～74歳	133	14	6.8%
75歳以上	190	21	9.8%
年齢不明	786	190	40.3%
合計	1,947	328	100.0%

【 相談内容 】

	相談内容	延べ件数	構成比
1	サービス利用	98	5.0%
2	病気	124	6.4%
3	けが	13	0.7%
4	障がい（手帳有）	92	4.7%
5	障がい（疑い）	76	3.9%
6	メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）	150	7.7%
7	自死企図	5	0.3%
8	住まい不安定	110	5.6%
9	ホームレス	2	0.1%
10	経済的困窮	162	8.3%
11	（多重・過重）債務	23	1.2%
12	家計管理の課題	39	2.0%
13	就職活動困難	13	0.7%
14	就職定着困難	3	0.2%
15	生活習慣の乱れ	73	3.7%
16	社会的孤立（閉じこもり・引きこもり）	155	8.0%
17	家族関係・家族の問題	110	5.6%
18	不登校	37	1.9%
19	非行	3	0.2%
20	中卒・高校中退	17	0.9%
21	ひとり親	35	1.8%
22	ＤＶ・虐待	15	0.8%
23	外国籍	3	0.2%
24	刑余者	4	0.2%
25	コミュニケーションが苦手	16	0.8%
26	能力の課題（識字・言語・理解等）	20	1.0%
27	被災	24	1.2%
28	介護	61	3.1%
29	育児	9	0.5%
30	LGBT	0	0.0%
31	地域との関係	155	8.0%
32	ボランティアしたい	53	2.7%
33	ボランティアしてほしい	45	2.3%
34	その他	202	10.3%
	合計	1,947	100.0%

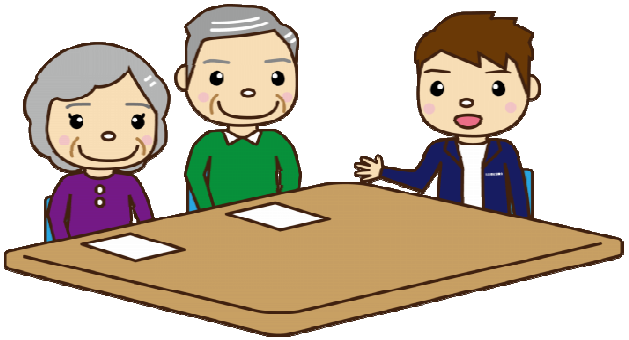
【 対象者年代別相談者 】

	相談内容(対象者との関係)						
対象者年代	本人	民生委員	家族	関係機関	近隣住人	その他	合計
0～9歳	18	4	12	22	1	2	59
10～19歳	63	3	22	30	2	4	124
20～29歳	29	1	10	9	2	4	55
30～39歳	9	6	0	12	0	0	27
40～49歳	30	7	14	24	2	0	77
50～59歳	195	12	8	23	5	17	260
60～64歳	30	0	3	3	5	0	41
65～70歳	123	3	9	57	0	3	195
70～74歳	70	3	7	40	5	8	133
75歳以上	71	31	16	41	23	8	190
年齢不明	481	46	70	125	38	26	786
合計	1,119	116	171	386	83	72	1,947

【 対象者年代別主な相談内容 】

年代＼対象者	相談内容																																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	総計
0～	10	2	0	1	4	1	0	0	0	4	0	0	0	0	3	1	4	1	0	0	3	0	1	0	1	0	0	0	2	0	3	1	6	8	56
10～	3	2	4	3	16	1	0	0	0	3	0	3	0	0	0	8	6	0	0	16	16	0	0	0	0	0	0	0	2	0	21	7	0	11	122
20～	1	0	0	4	0	4	0	8	0	3	0	3	0	0	7	7	12	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	55
30～	0	1	0	0	2	8	0	0	0	3	0	1	1	0	1	2	1	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	26
40～	4	5	0	5	5	10	0	1	2	2	0	0	0	0	7	4	14	1	0	0	0	3	0	0	2	1	0	2	0	0	0	5	1	3	77
50～	9	15	1	41	6	19	3	40	0	9	0	4	6	1	10	28	11	0	0	0	1	0	0	4	6	5	1	0	0	0	19	6	3	12	260
60～	4	5	4	1	1	3	0	4	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	1	1	1	4	41
65～	14	27	2	7	5	21	0	4	0	28	10	13	2	0	10	13	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	6	1	1	22	194
70～	9	8	0	0	2	1	0	26	0	6	0	1	0	0	11	18	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	22	11	0	0	2	2	5	3	133
75～	22	31	1	1	2	8	0	3	0	28	0	8	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	1	0	0	7	1	18	0	0	31	2	2	14	190
不明	22	28	1	29	33	75	2	24	0	77	13	6	4	2	23	67	47	33	0	1	13	8	1	0	6	3	0	24	5	0	68	28	26	124	793
合計	98	124	13	92	76	151	5	110	2	163	23	39	13	3	73	156	111	37	0	17	35	15	3	4	16	20	24	61	9	0	154	53	45	202	1,947
構成比	5.0%	6.4%	0.7%	4.7%	3.9%	7.8%	0.3%	5.6%	0.1%	8.4%	1.2%	2.0%	0.7%	0.2%	3.7%	8.0%	5.7%	1.9%	0.0%	0.9%	1.8%	0.8%	0.2%	0.2%	0.8%	1.0%	1.2%	3.1%	0.5%	0.0%	7.9%	2.7%	2.2%	10.4%	100.0%

1 サービス利用
2 病気
3 けが
4 障がい（手帳有）
5 障がい（疑い）
6 メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）
7 自死企図
8 住まい不安定
9 ホームレス
10 経済的困窮
11 （多重・過重）債務
12 家計管理の課題
13 就職活動困難
14 就職定着困難
15 生活習慣の乱れ
16 社会的孤立（閉じこもり・引きこもり）
17 家族関係・家族の問題
18 不登校
19 非行
20 中卒・高校中退
21 ひとり親
22 ＤＶ・虐待
23 外国籍
24 刑余者
25 コミュニケーションが苦手
26 能力の課題（識字・言語・理解等）
27 被災
28 介護
29 育児
30 LGBT
31 地域との関係
32 ボランティアしたい
33 ボランティアしてほしい
34 その他



Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援）

CSWによる相談対応や支援の内容を地区ごとに集計したものです。なお、CSWは11行政区に配置していますが、CSWが多く連携を図っている民生委員・児童委員や第2層生活支援コーディネーターの活動区域である14圏域ごとに集計しています（2圏域ある行政区の場合は、その行政区全体にかかわる支援件数についても掲載しています）。また、市内全体にかかわる支援や市外の支援についても集計しています。

【所沢地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	21	ごみ屋敷
2	16	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	14	生活支援
4	11	近隣トラブル
5	7	不安
5	7	経済困難
5	7	安否確認
8	5	自宅内を整頓したい
9	4	近くで通える場を知りたい
10	8	その他

【所沢地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	30	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
2	16	社協が運営する拠点活動
3	9	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
3	9	地域ケア会議
5	8	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
5	8	その他の会議
7	7	地域行事への参加・協力
8	6	子ども支援（こども食堂・学習支援）
9	4	第2層協議体又は協議体になり得る活動
10	19	その他

【松井東地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	11	自宅内を整頓したい
2	7	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	3	近隣トラブル
4	2	経済困難
4	2	ボランティア要請
4	2	ごみ屋敷
7	1	どこに相談したらいいか
7	1	生活支援
7	1	家族関係
10	2	その他

【松井東地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	12	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
2	10	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
3	5	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
3	5	地域ケア会議
5	4	その他の会議
6	3	ふくし学習
7	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
7	2	企業・商店等の地域公益活動支援
9	1	地域行事への参加・協力
10	16	その他

【松井西地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	26	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	17	ごみ屋敷
3	15	ひとり親
4	8	ボランティア要請
5	5	生活支援
5	5	孤立
5	5	介護
5	5	ボランティア活動をしたい
9	3	自宅内を整頓したい
10	11	その他

【松井西地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	31	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
2	5	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
3	4	地域ケア会議
3	4	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	4	ふくし学習
6	3	第２層ＳＣへの支援
7	2	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
8	1	地域行事への参加・協力
8	1	第2層協議体又は協議体になり得る活動
10	12	その他

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援）

【松井全域地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	49	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
2	17	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
3	12	地域行事への参加・協力
4	9	相談会の開催
5	8	その他の会議
6	6	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
7	3	担い手・ボランティア活動の相談支援
8	2	企業・商店等の地域公益活動支援
9	1	第２層ＳＣへの支援
10	3	その他

【柳瀬地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	1	生活支援
1	1	学習課題
1	1	ボランティア要請
1	1	ボランティア活動をしたい
1	1	どこに相談したらいいか
1	1	その他
7		
8		
9		
10		

【柳瀬地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	1	ふくし学習
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

【富岡地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	17	引きこもり
2	10	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	6	病気
4	5	近隣トラブル
5	4	金銭管理
5	4	近くで通える場を知りたい
5	4	介護
8	3	高齢
8	3	安否確認
10	17	その他

【富岡地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	15	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
2	12	相談会の開催
3	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
4	5	地域行事への参加・協力
5	3	その他の会議
6	2	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
6	2	地域ケア会議
6	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
6	2	第２層ＳＣへの支援
10	17	その他

【新所沢地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	7	ボランティア活動をしたい
1	7	どこに相談したらいいか
3	6	ごみ屋敷
4	4	病気
5	3	騒音問題
6	2	受診同行
6	2	自宅内を整頓したい
6	2	今後の不安
6	2	経済困難
10	3	その他

【新所沢地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	12	相談会の開催
2	9	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
3	8	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
4	7	その他の会議
5	6	地域行事への参加・協力
6	5	子ども支援（こども食堂・学習支援）
7	3	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
7	3	第2層協議体又は協議体になり得る活動
9	2	地域ケア会議
9	2	社協が運営する拠点活動

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援）

【新所沢東地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	5	ごみ屋敷
2	3	ボランティア要請
3	2	孤立
3	2	ボランティア活動をしたい
5	1	自宅内を整頓したい
5	1	今後の対応についての相談・打ち合わせ
5	1	家族関係
5	1	その他
9		
10		

【新所沢東地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
2	5	地域ケア会議
3	2	その他の会議
4	1	地域行事への参加・協力
4	1	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
4	1	子ども支援（こども食堂・学習支援）
4	1	企業・商店等の地域公益活動支援
8	3	その他
9		
10		

【三ヶ島第1地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	16	不安
2	7	ごみ屋敷
2	7	近隣トラブル
4	5	引きこもり
5	4	生活支援
5	4	経済困難
5	4	安否確認
8	3	精神障害
8	3	今後の対応についての相談・打ち合わせ
10	23	その他

【三ヶ島第1地区地域支援】

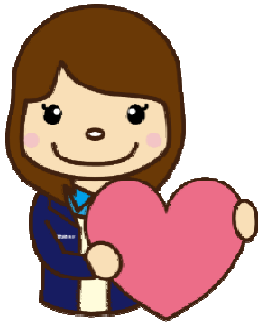
順位	支援回数	主な支援内容
1	3	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
1	3	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
1	3	担い手・ボランティア活動の相談支援
1	3	子ども支援（こども食堂・学習支援）
1	3	その他の会議
6	2	地域行事への参加・協力
6	2	地域ケア会議
6	2	人材育成・講座・学習等
6	2	社協が運営する拠点活動
10	10	その他

【三ヶ島第2地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	26	近隣トラブル
2	11	経済困難
3	8	不安
3	8	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	8	家族関係
6	7	引きこもり
6	7	ボランティア活動をしたい
8	2	病気
8	2	どこに相談したらいいか
10	16	その他

【三ヶ島第2地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	3	その他の会議
2	2	人材育成・講座・学習等
3	1	地域行事への参加・協力
3	1	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
3	1	地域ケア会議
3	1	担い手・ボランティア活動の相談支援
3	1	第２層ＳＣへの支援
8	6	その他
9		
10		



【三ヶ島全域地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	27	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	20	相談会の開催
3	19	社協が運営する拠点活動
4	15	その他の会議
5	14	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
6	7	地域行事への参加・協力
7	5	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
7	5	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
9	2	担い手・ボランティア活動の相談支援
10	7	その他

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援）

【小手指第1地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	7	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	6	安否確認
3	5	経済困難
4	4	判断能力の低下
4	4	どこに相談したらいいか
6	3	近くで通える場を知りたい
6	3	引きこもり
6	3	ごみ屋敷
9	2	介護
10	13	その他

【小手指第1地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	6	地域ケア会議
2	2	第2層協議体又は協議体になり得る活動
3	3	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	1	地域行事への参加・協力
5	1	担い手・ボランティア活動の相談支援
5	1	企業・商店等の地域公益活動支援
5	1	その他の会議
8	5	その他
9		
10		

【小手指第2地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	5	ボランティア活動をしたい
2	2	認知
3	1	動物問題
3	1	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	1	介護
3	1	どこに相談したらいいか
3	1	サロン運営について
8	6	その他
9		
10		

【小手指第2地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	5	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
2	3	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	1	地域ケア会議
3	1	その他の会議
3	1	その他
6		
7		
8		
9		
10		

【小手指全域地区地域支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	4	第2層協議体又は協議体になり得る活動
1	4	その他の会議
3	3	子ども支援（こども食堂・学習支援）
4	2	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
5	1	地域行事への参加・協力
5	1	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
7	3	その他
8		
9		
10		

【山口地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	51	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	10	ひとり親
3	7	引きこもり
4	6	介護
4	6	家族関係
6	5	精神障害
6	5	ボランティア活動をしたい
8	3	不安
8	3	近くで通える場を知りたい
10	15	その他

【山口地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	13	子ども支援（こども食堂・学習支援）
2	12	社協が運営する拠点活動
3	11	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
4	10	その他の会議
5	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
5	7	ふくし学習
7	6	相談会の開催
8	3	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
8	3	地域ケア会議
10	4	その他

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援）

【吾妻地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	9	生活支援
2	6	引きこもり
3	5	ボランティア活動をしたい
4	3	近隣トラブル
4	3	家族関係
4	3	ごみ屋敷
7	2	動物問題
7	2	今後の対応についての相談・打ち合わせ
7	2	安否確認
7	2	ボランティア要請

【吾妻地区地域支援】

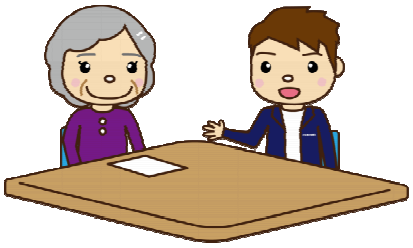
順位	支援回数	主な支援内容
1	12	第２層ＳＣへの支援
2	9	第2層協議体又は協議体になり得る活動
3	8	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	8	その他の会議
5	6	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
6	4	人材育成・講座・学習等
7	3	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
8	2	地域ケア会議
9	1	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
9	1	担い手・ボランティア活動の相談支援

【並木地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	22	ごみ屋敷
2	19	不安
3	18	精神障害
3	18	高齢
5	17	今後の対応についての相談・打ち合わせ
6	11	経済困難
7	6	今後の不安
7	6	孤立
7	6	ボランティア要請
10	33	その他

【並木地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	82	相談会の開催
2	49	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	12	地域福祉サポーター　地区別の取り組み
4	8	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
5	5	地域ケア会議
6	4	地域行事への参加・協力
7	3	第2層協議体又は協議体になり得る活動
7	3	第２層ＳＣへの支援
7	3	人材育成・講座・学習等
10	30	その他



【市内全域地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	24	その他の会議
2	5	担い手・ボランティア活動の相談支援
2	5	人材育成・講座・学習等
4	4	子ども支援（こども食堂・学習支援）
5	3	地域の居場所づくり（サロン・体操等）
6	2	地域ケア運営会議
6	2	第2層連絡会
8	1	地域行事への参加・協力
8	1	地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議
10	8	その他

【市外・その他地区個人支援】

順位	支援回数	主な相談内容
1	9	ボランティア活動をしたい
2	2	不安
2	2	どこに相談したらいいか
4	1	今後の対応についての相談・打ち合わせ
5	7	その他
6		
7		
8		
9		
10		

【市外・その他地区地域支援】

順位	支援回数	主な支援内容
1	2	人材育成・講座・学習等
1	2	社会福祉法人の地域公益活動支援
3	1	担い手・ボランティア活動の相談支援
3	1	子ども支援（こども食堂・学習支援）
3	1	その他の会議
6	2	その他
7		
8		
9		
10		

Ⅲ　地域の実態把握及び支援

CSWは個別の相談対応と並行して、担当地区において課題や社会資源等の実態把握や各種取り組みに対する支援を行っています。地域における既存の活動やこれから地域で活動してみたいという住民の方等へ支援することを通じて、地域の福祉力向上を図っています。この表はその具体的な支援の対象や内容を集計したものです。

なお、写真は、地域においてCSWが支援でかかわった各種取り組みの様子です。

地域への支援内容	件数
人材育成・講座・学習等	1
子ども支援（こども食堂・学習支援）	36
地域の居場所づくり（サロン・体操等）	29
社協が運営する拠点活動	3
地域ケア会議	14
その他の会議	17
地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議	4
地域行事への参加・協力	10
担い手・ボランティア活動の相談支援	7
相談会の開催	99
社会福祉法人の地域公益活動支援	3
地域福祉サポーター　地区別の取り組み	6
ふくし学習	4
生活支援体制整備事業に関する支援	13
その他	47

子ども支援（こども食堂・学習支援）

平成30年10月11日

平成31年01月18日

下安松中新井自治会
平成30年11月01日

ｻﾛﾝこすもす
平成30年11月05日

楽々おしゃべりｻﾛﾝ
平成30年11月05日

北野小育成会じいばあの会
平成31年2月16日

新所沢東地区住民懇談会
平成31年3月19日

Ⅳ　地域のネットワーク化

　CSWは支え合いのまちの実現のために、担当地区において、地域の中のつながりづくりを地域住民、関係機関・団体の皆様と進めています。この表はネットワーク化に関わる支援内容をまとめたものです。

内　容	件数
子ども支援（こども食堂・学習支援）	3
地域の居場所づくり（サロン・体操等）	11
社協が運営する拠点活動	1
地域ケア会議	17
その他の会議	10
地域づくり協議会・自治連・地区社協等の会議	18
地域行事への参加・協力	6
担い手・ボランティア活動の相談支援	3
企業・商店等の地域公益活動支援	3
生活支援体制整備事業に関する支援	7
地域福祉サポーター　地区別の取り組み	1
その他	3

地域の居場所づくり（サロン・体操等）
平成30年10月24日

■まとめ

Ⅰ　データから見る考察

これまで、相談者の多くが高齢者であるという印象でしたが、今年度の集計では、50歳代の働き世代の相談が最も多い結果となりました。相談内容については、経済的困窮が最も多く、その背景には病気やメンタルヘルスの要因によって就労ができないといった課題があります。

このような相談者の多くが家族や地域との関係にも問題を抱え、長い期間の引きこもり状態にあり、高齢となった親の年金で生活する、いわゆる「８０５０問題」となっている事例が珍しくなくなってきました。

また、50歳代という働き世代は、子育て世代でもあり、自らの病気やメンタルヘルスの不調等から、子育てにも課題を抱えているというケースも増えています。その結果、子どもの育ちについても心配される世帯もCSWに相談が寄せられるようになってきました。

いずれのケースも、周りに相談できる人がいない、どこに相談して良いかわからないといった状況が長く続いていたことにより、本人や家族だけでは解決できなくなるほど課題が複雑化、深刻化してしまっていることも見えてきました。また、その多くが、生活の基盤となる自宅がゴミや物で溢れかえっており、心や身体にとって安全で衛生的な環境とは言えない中で生活しています。その状況は、人や社会との関わりが極めて少ない「社会的孤立」を象徴しているようにも見えました。

Ⅱ　CSW活動のまとめ

（１）CSW活動の見える化

CSWの活動は、まだまだ認知度が低く、「役割が分かりづらい」「何をしている人なのかわからない」といった声もあることから、平成30年度上半期の活動報告書を作成し、CSWの活動を「見える化」を図りました。また、年度末には実践報告会「CSW★ラボ」も開催しました。

こうした積み重ねにより、自治会、民生委員、関係機関等の方々にも、少しずつ理解していただけるようになり、ご近所で心配な方や困っている方を CSW につないでくれるケースも増えました。

また、これまで相談先のなかった制度の狭間の問題や社会的孤立の問題に、地域住民や地域福祉サポーター等と連携し活動することができてきました。

CSW だけで課題を解決するのではなく、様々なネットワークを活かして、人と人、人と場所、人と情報をつなぎながら、解決に向けた支援や個別の支援を積み重ね、共通の課題を捉え、地域の中で解決できるしくみづくりが求められます。

今後も、より多くの方に CSW の活動を周知していく必要があります。

（２）個別相談の対応

事例１　不登校の子どもがいるケースへの関わり

中学２年生と小学２年生の子どもと暮らすシングルマザー。本人は持病があり不登校等の悩みによる体調不良が続いているために家事や掃除ができていないことから、主任児童委員から CSW につながった。CSW は、こども食堂へ誘い、自宅を訪問してこの母親の思いを受け止めた。

個別ケース検討会では、学校としても対応に苦慮している状況が見られ、家事ができないことへの助けとして制度を利用していた。しかし、利用回数の限度まで使い切ってしまっていた為に、サービス利用はできない状態であった。

そこで CSW が自宅を訪問した際に、一緒に片付けながら話を聞き信頼関係を構築していった。本人と実際に話をする中で、CSW はケース検討会で言われていた母親像との違いに違和感を覚え、支援の方法を柔軟に変化させていった結果、子どもともあいさつできる関係までになった。

今後も、関係づくりを進めていくために、関係機関と連携して取り組んでいきたい。

主任児童委員から相談 → **関係者とのケース検討** → **CSWによる支援方法の柔軟な変化** → **本人との関係づくり**

事例２　不登校から引きこもりになっていたAさん（女性）への支援

10代女性Aさんは家族（父・母・弟・妹）と同居している。Aさん世帯は生活困窮世帯であり、母親は精神疾患を抱えている。

Aさんは軽度の知的障がいがあり、中学生の頃に受けたいじめをきっかけに中学卒業後、進学・就職はせず自宅に引きこもっている状態であった。そのため、家族以外の大人と関わる機会が少なく、家族以外の大人との関わりが持てる居場所づくりと、Aさん自身の意思を引き出せるような支援が必要だと判断し、支援が始まった。

地域住民、関係者で情報共有を重ね、「Aさんのための居場所」を開設することとなった。当初はCSWの付き添いが無いと参加に消極的であったが、信頼関係が生まれてくると、自分の将来への思いについて、CSWやボランティアへ伝える場面も見られるようになった。

その後、Aさんのために開設した居場所は地域に開かれた居場所となり、Aさん自身も居場所の運営スタッフとして役割をもって参加している。

相談会を介し情報提供がある → **関係者との情報共有ケース検討** → **A さんのための居場所の開設** → **地域の方も参加できる居場所に**

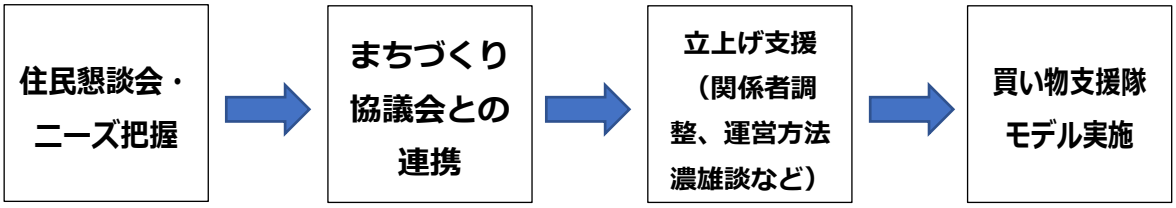
（３）地域の課題への取り組み

事例３　地域の困りごとを地域力で解決したい！

社協住民懇談会で、「外出のための足がなく不便だ」という情報を得て、地域づくり協議会福祉部会に提起し、「買物難民対策」を事業として取り上げていただけることに。

該当する自治会からは「必要ないのでは？」と疑問視されたが、地区の民生委員は要援護高齢者調査で状況を把握し、地域包括支援センターでも利用者の相談で課題を把握していたことから、CSWは他地区の買い物支援の情報を提供し、モデル実施を開始。

地区の社会福祉法人の車両提供を受け、送迎と見守りのサポートを民生委員が担当し、モデル実施の報告会を該当する自治会で実施。協力するスタッフ、利用者が増え、本格実施に向けた準備を進めている。



（４）地域アセスメントシートの作成

地域アセスメントシートは、地区の基本情報や地域特性（歴史、文化、自然環境等）、活動に取り組む中で地域が直面する課題、社会資源（地域住民・組織・団体の活動内容や状況など）や地域におけるニーズ等を各地区のCSWが整理したものです。また、それらを踏まえつつ、CSWが地域における取り組みの中で見えてきた課題を抽出し、CSWとして今後取り組んでいきたいことをまとめました。

«アセスメントシートの項目»

①基本情報（人口・高齢化率・自治会）、②どのような地域特性（歴史、文化、自然環境、産業等）か、③どのようなニーズがあるか、④どのような福祉活動（フォーマル）があるか、⑤どのような福祉活動（インフォーマル）があるか、⑥地域に「あったらいいな」と思うもの、⑦「あったらいいな」の実現のために、活用できる資源（ヒト・モノ・カネ・情報）、⑧現在取り組んでいること、見えてきた課題、⑨CSWがこれから取り組みたいこと

地域を客観的に捉え、分析し、「見える化」することは、誰もが安心して暮らせるまちづくりを住民、関係機関・団体の皆様とともに検討する上で欠かせない取り組みであり、今後も継続してアセスメントシートを見直していきます。

なお、次ページ以降のアセスメントシートは紙面の関係上、一部を抜粋しています。

平成30年度CSW地域アセスメントシート　所沢地区　平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	32,399人（16,398世帯）	市全体（H30.9月現在）	26.44%
	年少人口0～14歳	3,742人(11.5%)	所沢　地区	20.7%
	生産年齢人口15～64歳	21,924人（67.6%）	【自治会】	
	前期高齢者65～74歳	3,462人（10.6%）	自治会数	14
	後期高齢者75歳～	3,271人（10.0%）	自治会加入率	75.9%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・個別の相談支援を行う中で、社会的に孤立している若い世代の相談も多い ・高齢で足腰が悪く、ゴミ出しが困難な人がいる ・高齢で雪かきができない人や、空き家で草の処理ができていないところがある ・公民館が活用されていない日がある ・マンションやアパートが他地区より比較的多く、住民同士のつながりが希薄 ・住民座談会では災害時の不安の声が多く上がっている 【必要なニーズ】 ・自主防災訓練の見直しや防災の組織を作りたい ・ゴミ出しを助け合える仕組みがあるとよい ・雪かきや草むしりなど、地域で助け合える活動があるとよい ・公民館をもっと有効活用したい ・マンション住民とつながる居場所があるとよい ・誰でも気軽に集まれる居場所があるとよい			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■金山食堂誰でもランチ会 （推進できていること） 一人暮らしの高齢者や子育て世代などが参加しており、多世代が交流できる居場所となっている。夏休みや春休み期間は小中学生を対象とした取り組みも実施している。参加者全員が役割を持ちながら活動に参加できている。 （課題） 運営については現状、社協の地域福祉活動モデル事業として位置付けてとりくんでいる。来年度以降からは、住民主体で継続できることが求められる。運営は実行委員会形式など住民同士が話し合って決めていくことが重要である。そのためには、情報収集や意見交換できる環境・仕組みづくりが必要である。 ■所沢地区活動拠点（コーポ名取） （推進できていること） 地域福祉サポーターを中心に、カフェ、カレーの日、メンズ会の取り組みが継続的に実施できている。拠点での活動を通して、就労につながった人や、地域でたくさんの人とのつながりができた人もいる。
	（課題） 常設型の居場所を展開するための担い手が不足している。 ■住民座談会のとりくみ 14町会ごとに開催して、実情にあった身近な声を拾っている。住民が福祉の問題を考える機会となり、また住民同士の顔がつながる場となった。ここであがった声は、第2層協議体で課題解決のための話し合いにつながっている。

CSWがこれから取り組みたいこと

①常設型（生活支援）の居場所（まずは所沢拠点）

現在所沢地区活動拠点は、毎週木曜日と金曜日に活用されているが、他の曜日でも拠点を活用したいという声が挙がっている。既存の取り組みであるフリースペース、カフェ、カレーの日、メンズ会に加え、ゴミ出しや草むしりなどの要支援ケースへの対応を地域の中で共有できる拠点としたい。

・いつでも誰でも出入り自由にできること
・自分の居場所と思えること
・自分の持っている能力（得意なこと）を発揮できること

②情報の発信

現在所沢地区での取り組みを、とこ地区通信に載せて情報発信をしているが、住民からも情報発信ができる仕組みを作っていきたい。例えば、とこ地区通信員の育成や、SNSを活用した情報発信などをしていきたい。
福祉掲示板の活用についても、機能アップを検討していく。

平成30年度CSW地域アセスメントシート 松井地区 平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	43774人（19583世帯）	市全体（H30.9月現在）	26.44%
	年少人口0～14歳	5,695人（13.0%）	松井地区	25.0%
	生産年齢人口15～64歳	27,131人（62.0%）	【自治会】（H30.3現在）	
	前期高齢者65～74歳	5,753人（13.1%）	自治会数	46
	後期高齢者75歳～	5,195人（11.9%）	自治会加入率	58.6%
地域住民はどのようなニーズがあるか	【松井東地区】 高齢になると坂道が多いので買物（近くに買物のできる店がない）・通院が困難。ところバスが近くを通らない地区があり、ルート変更や新たな移送サービスができるといい。 閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者や子育て世帯がいるので、気軽に集える場所（サロンなど）があるといい。 児童館がなく、子育ての情報収集・交換ができる場所が少ないことから、孤立している世帯がいないか心配。情報収集・交換ができる場があるといい。 【松井西地区】 高齢になると坂道が多いので買物（近くに買物のできる店がない）・通院が困難。ところバスが近くを通らない地区があり、ルート変更や新たな移送サービスができるといい。 閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者や子育て世帯、認知症の家族の介護をしている人がいるので、気軽に集える場所（サロンなど）があるといい。 子どもが遊べる場所が少ないので、近くに児童館や公園があるといい。			

	内　容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■個別相談支援 ・包括や地域福祉サポーター、民生委員等と連携しながらの個別支援を実施。支援を通じて、地域福祉サポーターと相談者との新たなつながりが生まれたケースあり。 （課題）CSWの取り組みについての周知が不足しており、様々な形での地域住民・関係機関への発信が必要。 ■松井ちょこっと相談（松井地区社会福祉協議会にて毎月第1月曜日10時～12時） ・相談のあった個別ケースについて、民生委員とCSWとで訪問（継続支援）、関係機関につなぐ等を行った。今後、相談案件の情報共有・課題抽出を行っていきたい。 （課題）関係者（機関）からの相談が主ではあるが認知度は高まっている。今後は、住民への認知度を高めていく必要がある。 ■地域スペースに関するアンケートの実施（松井地区社会福祉協議会にて実施） ・活用できそうな（すでに活用している）場所についての情報を収集した。 （課題）場所についての詳細や情報共有、周知が必要。拠点となる場所があったとしても、リーダーとして活動される方がおらず、リーダーとなる方の育成が望まれる。 ■サロン助成事業（松井地区社会福祉協議会にて実施） ・サロン立ち上げ等の相談を受け、立ち上げについての説明等を実施。数件の立ち上げ支援を行った。
	・昨年度4件から今年度は8件に助成先が増加。助成サロンの交流会を開催し、つながりづくりや情報共有を行った。 （課題）各サロンとの連携を深め、地区社協の様々な取り組みについても相互協力を行っていけるよう進めていく。

CSWがこれから取り組みたいこと

①地域住民・関係機関と連携しての個別支援

個別ニーズに対するアンテナを広げ、キャッチしていく必要がある。地域住民・関係機関（地区社協、民生委員児童委員、サポーターなど）との連携を密にすることで、課題を抱えている世帯の情報を収集し、課題解決に向けた働きかけを行うと同時に、個別の課題を地域の課題として提起することで、地域における支援の輪・見守りの意識向上を図る。

②多世代型の集いの場づくり

高齢者はもちろん、子育て世帯が増加している地区もあることから、多世代型の集いの場が必要。ダブルケアや閉じこもりの方の支援の場としても活用していきたい。活用場所だけでなくリーダーとなれる方の開拓や育成も検討していきたい。

③「松井ちょこっと相談」の周知

松井地区社会福祉協議会との連携により、身近な地域における相談の場、身近な地域ニーズを捉える場、地域・関係機関・行政とをつなぐ場として、相談会の周知を図る。

平成 30 年度 CSW 地域アセスメントシート 柳瀬地区 平成 31 年 1 月 16 日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成 30 年 9 月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	19,046 人（8,665 世帯）	市全体(H30.9 月現在)	26.44％
	年少人口 0～14 歳	2,342 人（12.3％）	柳瀬 地区	20.64％
	生産年齢人口 15～64 歳	12,804 人（67.23％）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74 歳	2,290 人（12.02 ％）	自治会数	19
	後期高齢者 75 歳～	1,610 人（8.45％）	自治会加入率	40.5％
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・旧村は 3 世代同居が多く、高齢者は家族に車を出してもらわないと出かけられない。 ・相談支援を行う中で、経済的に厳しいというお話を聞くこともあり、こども食堂等の支援が必要ではないかと考えられるが、支援を受けたがらない。 【ニーズ】 ・なんでも相談会をまちセン 1 箇所だけでなく、身近な自治会館でやって欲しい。 ・30 代で持病があって働けていない子育て中の母親が、地域で同年代と子どものことなどを話せる場所が欲しい。 ・朝食を食べないで保育園に来ている子どもたちがいる。乳児の場合はおやつが出るので、昼食まで持つが、幼児の場合となると昼食まで何も食べない状態で過ごすことになる。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■第 2 層生活支援コーディネーターと坂之下買い物支援隊の立ち上げ支援 平成 29 年度の住民懇談会で出された意見から、福祉部会で検討を重ね、モデル実施ということで 3 月まで実施している （課題） 坂之下住民の中で、活動に対して疑問を感じている方がいる。そのため、住民向けに周知の機会を設ける予定である。 現在、坂之下地区の民生委員に連絡・添乗を依頼しているが、モデル実施後の人員体制をどう確保するか、どう進めるかを検討中である。 ■東所沢 3 丁目のサロン立ち上げのサポート 自宅を開放してサロンを立ち上げたいという地域住民から、地域の第 2 層 SC と共に立ち上げ支援を 8 月から行い、10 月からサロンを開始できた。個別相談を受けている方の活躍の場につなげた。 （課題） 地域に認知されていないため周知方法と、人が集まる仕掛けをどう作っていくかを、地域住民と考えて行きたい。
	■なんでも相談会の開催（第 1 火曜日・福祉部会が主催） （課題） 地域の活動団体同士のネットワークが不十分であり、お互いの活動を知らないため、連携までつながらない。 ■子ども食堂の立ち上げに向けた、子どもたちのニーズ情報が把握できない。 （課題） 民生委員・地域の方など、地域で子ども食堂を立ち上げたいという話は浮上しているが、子ども側のニーズが見えないため、立ち上げまで至っていない。

CSW がこれから取り組みたいこと

①子ども食堂の立ち上げ

・親子で来られる子ども食堂、食育を兼ねた子どもクッキング教室を地域の福祉施設の空きスペースなどで実施。

② 地区にある 3 校全てでのふくし学習の実施。

・地域住民を巻き込みながらのふくし学習の展開。

③ なんでも相談会の実施場所・回数の増加

・自治会館などを使った相談会+サロン活動の立ち上げ。旧村は、相談に行ったことを知られるのが噂になる地区なので、健康教室などをやりつつ相談会のアピールをする。

平成30年度CSW地域アセスメントシート 富岡地区 平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	22,976人（9,803世帯）	市全体(H30.9月現在)	26.44%
	年少人口0～14歳	2,735人（11.9%）	富岡　地区	31.2%
	生産年齢人口15～64歳	13,066人（56.9%）	【自治会】　H30.3.31現在	
	前期高齢者65～74歳	3,560人（15.5%）	自治会数	18
	後期高齢者75歳～	3,615人（15.7%）	自治会加入率	63.6%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・バスが通っていない、または本数が少ない。 ・歩いていける距離にスーパーなどがない。 ・地区別で高齢化率が市内第2位。　・地域との関わりが希薄になっている。 ・自分にできることはしたいと思っている人は多くいるが、支え合いには結びつきにくい 【ニーズ】 ・買い物や通院等の移動手段。 ・生活困窮世帯や40代～50代のひきこもりなど社会的孤立状態にある人の居場所。 ・気軽に参加でき、活躍のできる場			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■談笑タイム（相談会）の開催について 毎月第1・3木曜日　10時00分～12時00分　富岡まちづくりセンターロビー（H30.10月～） 相談会を通して地域住民と顔の見える関係作りを行い、個別ケースや地域ニーズの発見、地域資源の発掘・開発を行うことを目的として開催している。相談会では、「どこに相談したらよいかわからない」、「ちょっと聞いてほしい」といった内容が多く、気軽に相談できる場を求めているようである。 民生委員が抱えている相談をどこに話したらいいのかわからないという声も出ているため、民生委員と相談をしながら、民生委員とともに動ける窓口としても活用していきたい。 ■買物支援隊について 下富や中富をはじめとして、近所にスーパーがないために、高齢になって車や自転車が使えなくなると、買い物が難しくなる地域がある。そこで、富岡福祉プロジェクトを通して、自分の目で見て買い物をしたい住民と、施設の社会貢献が合致した取り組みとして買物支援隊（ネオポリス、中富）が立ち上がった。内容としては、日中空いている社会福祉法人等の車両に、買い物の際移動に課題のある住民と、民生委員や民生委員OBを中心としたボランティアが乗って、スーパーまで移送するものとなっている。 （課題） ・通院への移動手段等、買い物以外の日常生活に関する移送ニーズがある。 （その他の課題） ・富岡地区は自治会を基盤とした活動が活発であるが、自治会長などのところへ全て情報が集まっているわけではないため、ニーズを抱えた住民・世帯が潜在的に存在している。より多くの住民と協力してアンテナを張ることが必要。

	・現在、富岡地区では地区が広範囲であるにも関わらず、まちづくりセンター一箇所に関係者すべてが集まって会議等を開催している。今後は地区全体の動きと合わせて、より小地域に根ざした形での取り組み方が必要だと感じている。

CSWがこれから取り組みたいこと

①富岡地区での拠点づくり

まずはCSWが常駐できるような拠点を作りたく、最終的には小学校区程度に区分した範囲での活動が行える拠点を構築したい。富岡地区内だけでも広範囲にわたるため、地区全体として一つのことに取り組んでいくには限界がある。特に、生活支援や支え合いの活動は、比較的近隣同士の支え合いである方がスムーズであるため、地区全体での動きとあわせて、より小地域に根ざした形での活動とその拠点を作りたい。（現状としては地域での取り組みを行いたい住民とまだつながりを持てていないため、住民との関係作りが優先される。）

⇒担当CSWとしては、北中公民館が地域住民に積極的に使われているため、モデル的に拠点として使うことが出来ないかを検討している。今後、拠点として使える場所の情報収集及び検討を行っていく。（現在、中央部：富岡まちづくりセンター、東部：かしの木学園、西部：北中自治会館を検討中。）

②見守り体制の仕組みづくり

専門機関による見守りの体制等は比較的進んできている一方で、近所で暮らす住民同士での見守りの仕組みの見直しを行い、新たな構築や可視化を行っていきたい。専門職が関わることで地域住民同士の関係が薄くなっている傾向も見られるため、意図的に住民同士の見守りについて構築・可視化し、住民の役割意識を育てていく。見守り体制の構築には、住民相互の自然な関係づくりが不可欠となるため、住民同士の関係づくりの支援も行っていく必要がある。まずはすでにあるケースから関係する地域住民による見守りの体制を構築し、住民相互の関係づくりを行っていく。長期的な視点で見たときに、ゴミ出しや簡単な生活の相談相手など、支え合いの活動につながることを目指す。

③富岡地区住民懇談会（小地域版）

現在、富岡地区全体で年1回の住民懇談会が行われているが、富岡地区内でも広範囲になるため、課題にばらつきがある。そのため、住民にとってより身近な地域でのニーズ発見を行いたい。現在3地区または4地区（小学校区程度）に分けた形での開催を考えている。また、より身近な地域でのニーズ発見を住民自身が行うことで、地域活動への興味・参加意欲を高めていくことも意図している。

富岡地区全体のニーズ把握と合わせて、より小地域でのニーズを発見し、近隣住民同士による支え合い、課題解決の仕組みづくりを探っていく。

一方で、新規参加者を増やし、地域のニーズが偏った形で表出されないように促していく。

平成 30 年度 CSW 地域アセスメントシート 新所沢地区 平成 31 年 1 月 16 日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成 30 年 9 月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	28,405 人（13,288 世帯）	市全体（H30.9 月現在）	26.44%
	年少人口 0～14 歳	3,437 人（12.09%）	新所沢地区	24.17%
	生産年齢人口 15～64 歳	19,788 人（69.66%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74 歳	3,234 人（11.38%）	自治会数	18
	後期高齢者 75 歳～	3,632 人（12.78%）	自治会加入率	62.9%
どのようなニーズがあるか	【現状】 新所沢駅付近は活動の拠点となる公共施設も多く、様々なイベントもあり、利便性が高いためか、地域活動に積極的に参加する元気な高齢者が多い。一方で配偶者に先立たれた単身高齢者や虚弱高齢者も多く、自宅に閉じこもりがちになり、誰とも会話せずに日々を過ごしていて、認知症の発見が遅くなったり、孤独死が問題となっている（特に UR 団地から多く相談が上がる）。 向陽町や青葉台エリアには戸建て住宅が密集しているが、空き家や住宅の維持管理が困難になったと思われる住宅もいくつか見受けられる。また青葉台や向陽町の西部は地区内に歩いて行ける範囲にサロンなど気軽に立ち寄れる場がほとんどない。 榎町エリアは近年住宅の開発がすすみ、比較的新しい戸建て住宅が多く、子育て中の若い世代が多い。住民たちが集まれる集会所等が近くにない。 【必要なニーズ】 ・住民同士が見守りあう仕組み ・気軽に相談ができる体制の整備 ・住民や自治会、包括支援センターとの課題の共有や連携 ・歩いて行ける範囲の気軽に立ち寄れる居場所 ・高齢者が生きがいを持って参加できる場所 ・多世代で交流できる場所			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■CSW による（個別・地域）ニーズのキャッチ ①『ぐりーんぽけっと』における福祉なんでも相談会の実施（毎月第 3 金曜日） ②住民懇談会の開催（向陽町・緑町〔主に UR エリア〕） （現状）相談会では、生活のちょっとした困りごとや、一人暮らしの不安についての話が多い。民生委員からは、UR に居住している方で、生活は何とか自立しているものの、他者とのコミュニケーションがない（認知症や精神疾患が疑われる）方や、引きこもりがちな方についての相談が増えている。 （課題）地域活動や制度につながりづらい方々をどう地域で見守れるかの検討。サービス導入が必要な方を見過ごすことなく、必要なタイミングでどうサービスにつなげていけるか。
	■団体の地域活動の支援 ①しんとこ広場ないろ （現状）新所沢地区と新所沢東地区の地域福祉サポーター有志により、平成 30 年 5 月～誰でも気軽に集える居場所「しんとこ広場ないろ」を開催。また新たな取り組みとして平成 31 年 1 月～子どもの居場所もあわせて実施しており、立ち上げのサポートを行った。 （課題）現状ではこどもの居場所としては開館時間が短いため、放課後の子どもたちの居場所としての定着が課題となる。また今後、貧困世帯の子どもや、様々な家庭の事情がある子どもがいるときには、運営や対応方法について検討する必要がある。 ■小さい単位での支え合い活動の支援 ①サロンの立ち上げ （現状）向陽町で住民座談会を開催した際に、住民の支え合いについて意見交換をしたところ、参加していた住民から「自宅を開放してサロンをやりたい」という声が上がった。地域包括支援センターと協力して、立上げに向けての助言等のサポートを行った。 （課題）自宅を開放するがゆえに、誰にでもオープンな空間とすることは難しい様子。

CSW がこれから取り組みたいこと

①住民同士でもできる見守り活動について話合いを行う

引きこもりや孤独死をなくしていくための第一歩として、まずは自治会、包括、UR などの参加のもと、住民懇談会を開催し、住民同士の支え合いの実例を紹介しながら、見守りや支え合いについて考える場を設ける。その後、見守りの仕組みづくりについて検討していく。

②高齢者の生きがいの場と子どもの居場所の推進

多世代交流や高齢者の生きがいの場として、しんとこ広場ないろの子どもの居場所の取組みが安定するよう、側面的なサポートをする。子どもの参加を定着させるため、子ども自身が担い手になったり、意見を取り入れた運営を助言していく。またこの取組みが地域で定着することにより、家庭に課題を抱える子どもの居場所になったり、関係機関から相談や情報が入りやすくなるため、積極的に情報提供をしていきたい。

③サロンの立ち上げを支援する

歩いて行ける範囲の中で住民同士の支え合いの輪が広がるように、サロンなど小さい単位での支え合い活動をサポートしていく。特に立ち上げ時のフォロー等、活動が軌道に乗り継続できるよう見守っていく

平成30年度CSW地域アセスメントシート 新所沢東地区 平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	16,581人（8,086世帯）	市全体（H30.9月現在）	26.44%
	年少人口 0～14歳	2,101（12.67%）	新所沢東地区	23.48%
	生産年齢人口 15～64歳	10,587（63.85%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74歳	1,952人（11.77%）	自治会数	8
	後期高齢者 75歳～	1,941人（11.71%）	自治会加入率	65.3%
どのようなニーズがあるか	【現状】 住民の高齢化に伴い、つながりやみまもりが重要になってきているが、閉じこもりを防止するために、地域活動への参加を促しても、参加しない人も多い。地域情報を知らない方が多いので、参加につながっていないこともある。また、地区内には体操教室等はいくつかあるが、気軽に誰でも立ち寄れるサロンなどの居場所が少ない。多世代で交流できるとよい。 大雪が降った際に高齢者の世帯など雪かきができない家があった。 また、自治会で災害時の要援護者の安否確認を行うことになっているが、どのように実施したらいいのか困る。 【必要なニーズ】 ・地域住民同士が交流をするためにも、地域の中にちょっと立ち寄れて、気軽におしゃべりができるような場所（サロン）。 ・多世代で交流できる場 ・地域活動などの情報を身近に得られるツール ・雪かきの担い手 ・災害時の安否確認の仕組み			

	内容
取り組んでいること、見えてきた課題	■サロンなど居場所づくりの提案・助言 【取り組んできたこと】 ①地域ケア会議にて、他地区で自宅を開放してサロン立上げた方の紹介、実践報告の調整。 ②サロン立ち上げに向けての助言等。 【見えてきた課題】 ・元気な高齢者は複数の活動に参加しており、地区外にも出掛けている。一方、地域との接点を持ちたくない方、とじこもり高齢者も多い。声をかけても外に出ない方をどのように地域とのつながりをもたせるのか。サロン等の住民の居場所を希望する声は上がるものの、担い手が見つからず、具体的な活動には至っていない。 ■団体等が行う地域活動の支援 【取り組んできたこと】 ①地域マップ作りの取組みのサポート しんとこイーストネット高齢者いたわり部会で『新所沢お役立ちマップ』を紹介した。新所沢東地区でも作成したいとの声が上がり、部会の委員で役割をそれぞれ分担し、現在進行中。年度内に完成する予定。 【見えてきた課題】 マップの作成だけに終わらず、このマップ作りの取り組みを通じて、住民の方々と高齢者の見守りや社会参加について話をするきっかけとなるようにする。 ②しんとこイーストネットへの新所沢地区の「黄色いハンカチ」運動の情報提供 【見えてきた課題】 災害時の安否確認にとどまらず、平時に見守り合う仕組みについても意見交換する必要がある。

CSWがこれから取り組みたいこと

①地域情報の発信

・高齢者情報マップ作り

マップの作成は多くの住民の目に留まる活動で、地域住民に対して、しんとこイーストネットの高齢者いたわり部会をPRするきっかけにもなる。こうした取組みを通じて、しんとこイーストネットの活動を盛り上げていきつつ、活動を発展させていく。住民の方の地域づくりへの意識が高められるようはたらきかけていきたい。また、CSWとしては、高齢者情報マップを、自宅に引きこもりがちな高齢者へのアプローチのツールとして使っていきたい。

・ふくし掲示板の設置

地域活動の情報を発信するため、ふくし掲示板を地区内に増やす。

②居場所づくりの取組み

・居場所づくりのための懇談の場を設定する

ラーク所沢や花園会館等、公的施設や町会館などを活用した多世代交流のイベントや、居場所づくりのための懇談の場を設け、具体的な居場所づくりにつながるようサポートをしていきたい。

・地区内で使える助成金のしくみづくり

しんとこイーストネットと協力をしながら、まちづくり推進助成金（社協）等を活用して、地区内で使える助成金のしくみを整理して、自発的な取り組みを応援する体制を整えていきたい。

③担い手の発掘・育成

住民活動へ意識を高めるための啓発の場（懇談会や福祉講座等）を設け、地域活動の新しい担い手の発掘につなげる。

平成30年度CSW地域アセスメントシート　三ヶ島地区　平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	41,673人（18,916世帯）	市全体(H30.9月現在)	26.44%
	年少人口0～14歳	4,734人（11.35%）	三ヶ島地区	30.72%
	生産年齢人口15～64歳	24,138人（57.92%）	【自治会】	
	前期高齢者65～74歳	6,541人（15.69%）	自治会数	17
	後期高齢者75歳～	6,260人（15.02%）	自治会加入率	64.3%
どのようなニーズがあるか	【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘)】 【現状】 ・地域のつながり、関係が良好で地区ごとのお祭りや催しの参加も積極的で顔が見える関係ができている。地区に早稲田大学や県立芸術総合高等学校がある。 ・狭山ヶ丘駅から遠く、車がないと移動や買い物など交通アクセスが不便。 ・街灯が少なく、夜間は暗い。道幅が狭い割に大型トラックなどの交通量が多く、こどもや高齢者、自転車利用者に対して危険な箇所がある。 【必要なニーズ】 ・送迎サービス。　・見守りや交通安全パトロールの強化。　・学生と交流できる場所。 【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭)】 【現状】 ・狭山ヶ丘駅周辺は転入者が多く、隣近所との関係も希薄で、自治会加入率も低い。 ・活動拠点が出来たが遠くて行きにくい。 【必要なニーズ】 ・地域とのつながりや顔が見える関係を築ける居場所や活動。 ・施設利用料がかからず、無料で気軽に集える場所が欲しい。			

	内　容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘)】 ■みんなの縁側　みかじま　さんさん 夏休みに6日間の学習支援、冬休みにクリスマス会を実施。地域住民と学生ボランティアが交流する機会となり、自治会や民生委員・児童委員ともつながった。このつながりをきっかけに学生ボランティアと地域の関わりが増えた。 （課題） ・拠点はできたが周辺住民以外はなかなか集まりにくく、場所も分かりにくい。 ・拠点の活用方法や周知方法。 ■空ちゃん和ヶ原　こども食堂 和ヶ原地区において林小学校校区を対象にこども食堂の立ち上げに向けて取り組み中。13区集会所を使用することが決定。13区の自治会にも呼び掛け、地域全体でお互い支え合いながら活動できると良い。主任児童委員が気になる世帯とつなげていく。
	（課題） ・ボランティアスタッフなど担い手の確保。 【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭)】 ■よろず相談 毎月第2水曜日に和ヶ原支え合いセンターで相談会を実施。和ヶ原商店街で高校生が主体となったイベントや企画もあり、商店街や学生との連携、地域活性化に社協としても関わりが持てると良い。 （課題） ・相談会の認知度が低い。周知方法。

CSWがこれから取り組みたいこと

①みんなの縁側　みかじま　さんさん　を活用した地域活動

地域住民の居場所やつながりづくりのきっかけとなるような取り組みを地域の方々と相談しながら推進したい。早稲田大学の学生ボランティアやオリンピック出場を目指す学生とも学校、PTA、自治会と連携を図りながら地元をあげて活性化できるような取り組み、地域交流の企画の場として展開していきたい。

②13区集会所を活用したこども食堂

１３区にある小学校に主任児童委員が気になる児童が数名いること、三ヶ島第一地区にこども食堂がないことから立ち上げたいという声が２年ほど前からあり、その実現に向けて取り組んでいきたい。民生委員・児童委員だけでは手が足りず、１３区の自治会や住民にも呼びかけをし、地域と連携しながらサポーターを増やしたい。

③防災意識を高める取り組み

東狭山ヶ丘エリアでのケア会議で防災についてあまり関心がなかったことから、三ヶ島第二地区の第2層生活支援コーディネーターと連携し、三ヶ島第一地区に在籍している防災士の協力を得て、小単位での防災講話やHUG訓練などを実施したい。この取り組みをつうじて住民の防災意識を高め、いざというときに備える。災害時に自助ができる知識や心構えを学び、共助ができる顔が見える関係づくり・地域づくりを進めていきたい。

平成 30 年度 CSW 地域アセスメントシート 小手指地区 平成 31 年 1 月 16 日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成 30 年 9 月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	49,454 人（22,123 世帯）	市全体（H30.9 月現在）	26.44%
	年少人口 0～14 歳	6,441 人（13.02%）	小手指地区	25.33%
	生産年齢人口 15～64 歳	30,487 人（61.64%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74 歳	6,794 人（13.74%）	自治会数	72
	後期高齢者 75 歳～	5,732 人（11.59%）	自治会加入率	59.7%
どのようなニーズがあるか	【小手指第一地区】 （現状）地縁のつながりの強い地域では、自然な形で支え合いが行われている。その一方で、地域から孤立している相談者が多い地域もあることが見えてきた。 （必要なニーズ）身近な地域の中で、社会に参加する機会や居場所のニーズがあり、誰でも気軽に集える居場所が求められる。 【小手指第二地区】 （現状）駅前の高層マンションをはじめ、新住民も増加している。 （必要なニーズ）交流できる場所や機会が求められる。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【小手指第一地区】 ■居場所づくり ・こどもの居場所づくり：居場所のあり方や立ち上げに向けた話し合い ■ふくし学習 ・関係機関や地域の方と一緒に育む「ふくし学習」 （課題）誰もが気軽に利用できるスペースが少ない。 【小手指第二地区】 ■居場所づくり ・「SAKURA☆シークレットベース（こどもの居場所）」の立ち上げ支援（レジデンシャル小手指 Sakura） ・「ふぁみりぃサロン（おしゃべりサロン）」の立ち上げ支援（レジデンシャル小手指 Sakura） （課題）ニーズをキャッチする体制が整っていない。（ＣＳＷの認知度の低さ）

CSW がこれから取り組みたいこと

①居場所づくり

課題が上がっているエリアにこども食堂がなく、他地区のこども食堂に通っているこどもがいる。こどもに関する個別ケースが数件上がってきているので、民生委員や母子愛育班の方々などと意見交換をしながら、こども食堂の取り組みにつながるように働きかけたい。

また、小手指第一地区の地域ケア会議から、「スクールガード」、「子ども会」、「わんわんパトロール」の方々などと、こどもや高齢者の見守りについて話し合いがなされているため、こども達と住民の方々が接点をもてるような場づくり、共に学ぶ場づくりを検討しつつ、住民の方々が学校のふくし学習にも参画していただけるように働きかけていきたい。

いずれは、世代を問わず誰でも気軽に参加できる居場所にしたい。

②地区内での活動拠点をつくる

ＣＳＷの定期的な駐在が可能な場所をつくる。まちづくりセンターと相談し、いろいろな人がちょっと気軽に立ち寄って話ができる場所をつくりたい。

③自治会・民生委員との交流

自治会：社協会費や共同募金などのご協力はいただいているものの、自治会数が多く、自治会との関係性を深められていないため、できるだけ自治会の役員会等に訪問し、交流を深めていきたい。

民生委員：ＣＳＷの取り組みを知っていただく機会を増やし、一緒に取り組んでいける事を増やしていきたい。まずは、定例会に参加できるよう働きかけていきたい。

平成 30 年度 CSW 地域アセスメントシート 山口地区 平成 31 年 1 月 16 日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成 30 年 9 月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	28.158 人（12.700 世帯）	市全体(H30.9 月現在)	26.44%
	年少人口 0～14 歳	3,352 人（11.57%）	山口地区	30.47%
	生産年齢人口 15～64 歳	16,782 人（57.95%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74 歳	4.810 人（16.61%）	自治会数	36
	後期高齢者 75 歳～	4.014 人（13.86%）	自治会加入率	54%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・こどもの不登校によるひとり親家庭の支援が増加傾向。 ・高齢者のサロン活動や買い物支援隊があるものの担い手不足のために継続が難しくなっている。 ・坂道が多く最寄り駅やバス停までも遠い地域。 【必要なニーズ】 ・子育て中の人達が集まれる場所が欲しい。 ・若い人達との交流の機会がほしい。 ・身体を鍛えたいと思う人が多い。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■さわやか談話室にＣＳＷが月 2 回常駐 【現状】 地域福祉サポーターの方が山口地区は 40 名を越えているがサポーターとしての活動をしている人は 10 名程度である。さらにさわやか談話室に立ち寄る人も 4 名程度で固定化しているが情報交換ができており今後山口地区で始まるコミュニティガーデンのかかわりなども出てきたところである。 【課題】 これらをどのようにして地域に広めていくのかが課題。 民生委員さんからの相談も受ける事が出来るよい機会だが個別相談があるときには談話室が手狭になる。 ■ぽかぽか広場山口 【現状】 こども食堂の現在のスタッフは、さわやか談話室があったからこそ人と人を結びつける事ができた。また、子供と一緒に参加している親同士の交流があり当事者同志のつながりも生まれている。 【課題】 開催場所がコミセンという場所で山口地区は広いため場所の問題で参加出来ない子供のために新たな場所で開催しているためスタッフの負担が増している。

CSW がこれから取り組みたいこと

①交流の場

椿峰の緑道を歩いてまちセンから５分程度のところ（59 街区緑地）にコミュニティガーデンが始まるところである。花壇作りの計画作りにも地域福祉サポーターが参加していく。誰もが外出の機会を増やすきっかけになるように地域福祉サポーターを中心に周知していく。

②たまり場２号

個人宅で実際に近隣の人達の「たまり場」として活用されている場所があるが、高齢者サポート事業の事務所的なところにして誰もが立ち寄れる場所になればと考えている。

③トコろん元気百歳体操

トコろん元気百歳体操を山口まちセンに協力を依頼して広めていく。トコフィット同士の情報交換などできる機会をつくる。自治会館等でできるように支援していく。

平成 30 年度 CSW 地域アセスメントシート 吾妻地区 平成 31 年 1 月 16 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成 30 年 9 月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	37,300 人（17,643 世帯）	市全体(H30.9 月現在)	26.44%
	年少人口 0～14 歳	4,356 人（11.67%）	吾妻地区	24.89%
	生産年齢人口 15～64 歳	23,660 人（63.43%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74 歳	4,936 人（13.23%）	自治会数	11
	後期高齢者 75 歳～	4,348 人（11.65%）	自治会加入率	66%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・傾斜が多く、車いす利用者や高齢者は移動が不便。 ・歩いて行けるところに町内会館や集会所がない。（住吉、南住吉、西住吉） ・不審者情報が多い。（荒幡） ・所沢駅前の再開発が進行中で将来的に住吉方面の世帯数の増加と南小学校、南陵中学校の児童数の増加が予想される。 【必要なニーズ】 ・車いす介助などお願いできる人が身近に欲しい。 ・歩いて行ける身近なところに気軽に集まれる居場所。（住吉、南住吉、西住吉） ・子どもへの見守り強化。（荒幡） ・住吉方面の再開発に伴うこどもの居場所、子育て世代への支援、世代間交流の場、防犯等が今後ニーズとして予想される。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■住民座談会の実施 荒幡地区で地域包括支援センターと共催で住民懇談会を実施。幼稚園の園長も参加しており、ホールが空いている時間に居場所として活用できるのではと案が出る。座談会のアンケートから、居場所づくりに関わりたい参加者と再度話し合った結果、地域交流室の開催（2019 年 1 月 29 日開始）に至る。 同じく住民懇談会から荒幡自治会館の利用についても案が出され、人と人とをつなぐ場所として第 2 木曜日を開放する予定。 （課題） ・地域住民が主体となる取り組みへの意識の向上。 ・実働できる人材の確保。

CSW がこれから取り組みたいこと

①居場所づくり

住民懇談会がきっかけで荒幡地区に所沢第二幼稚園を活用した多世代地域交流の場（みんなであそぼっ！）が１月に立ち上がる。荒幡地区以外にも誰もが立ち寄れる居場所や交流の場が立ち上がるよう、空きスペースを活用した居場所づくりを推進したい。

②こども支援

北秋津こども食堂「とんぼハウス」が立ち上がったので、主任児童委員・保健センター等と連携し、孤食防止や気になる世帯へつなげていきたい。

③情報発信

身近なところで福祉情報が得られるよう、ふくし掲示板を増設したい（現在６枚）。

平成30年度CSW地域アセスメントシート　並木地区　平成31年1月16日作成

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】平成30年9月末現在		【高齢化率】	
	地区全体（世帯数）	23,847人（12024世帯）	市全体(H30.9月現在)	26.44%
	年少人口 0～14歳	2,527人（10.6%）	並木地区	33.95%
	生産年齢人口 15～64歳	13,225人（55.5%）	【自治会】	
	前期高齢者 65～74歳	3,954人（16.6%）市内№1	自治会数	25
	後期高齢者 75歳～	4,141人（17.4%）市内№1	自治会加入率	61.7%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・一人親家庭で親の帰りが遅い家庭が多い。 ・高齢独居で日々孤食であるため、食事に無頓着になりがちの方が多い。 ・困窮・高齢・多国籍・母子など、生活上の課題が多い世帯が多いため、地域での支え合いになかなか目が向かないことがあり、ボランティア活動者が不足している。 ・高齢者の取り組みは多いが、30～50代で働けていない人や引きこもりの人は年代も合わず参加し辛く、地域で孤立しがちである。 ・組織的な活動では縛りが多くなるため、組織化せずに気軽に活動に参加したい。 ・体操教室が多く、活気のある方が参加できる居場所はあるが、虚弱の方・ゆっくり過ごしたい方は参加しづらい。 【必要なニーズ】 ・毎日通えるこども食堂が欲しい。 ・多世代で食事ができる場所。 ・30代～50代が参加しやすい居場所。 ・ゆっくりおしゃべりができ、干渉されず過ごせるサロンが欲しい。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	■こどもの居場所づくり ①ぽかぽか広場並木8丁目（毎月第2・4木曜日16時30分～20時00分　サロン幸福亭ぐるり） 参加者の多くは8丁目の県営団地に住むこどもの参加者が多く、ひとり親世帯が多い。地域の一人暮らしの高齢者も参加している。大学生のボランティア、調理のボランティア、新所沢ロータリークラブなど、多くの方が関わって運営をしている。開催から1年半が経過し、こども達が自主的に配膳を手伝ったりする様子が見られるようになり、こども食堂でのルールをこども達自身がこども会議を開催して作成した。 （課題） ・母子ともに参加してもらうことが望ましいが、こどもだけの参加に留まっている。 ・ボランティアは地区外の方が多く、地域の方の参加が少ない。 ・自主的なグループ化をしていくための人材育成ができていない。 ・小学生の参加が増え、中学生が来づらくなったり、騒がしい環境が苦手な子が来れなくなった。 ・参加希望者が増える一方で、担い手となるボランティア及び場所が不足している。 ②ぽかぽかスカイ（毎月第2･4水曜日10時30分～14時30分　スカイマンションA棟103） 住民から多子世帯で不登校のこどもがいる家庭の情報が入ったこと、①のこども食堂に参加がしづらくなった不登校の中学生がいること、包括から支援に入っている家庭のこどもで不登校がいること、相談会に不登校のこどもの相談があったこと、地域でこども食堂を開催したいボランティアがいたことから、居場所づくりがスタートした。不登校やひきこもりの若者の居場所として、スタートしているが、「誰でも参加できる居場所」として開催している。地域のボランティアが主体的に運営できており、ＣＳＷは個別のケースを繋ぐ役割として関わっている。

	（課題） ・安く昼食を食べられる場所として利用している地域住民もいるため、今後どのように地域の方を巻き込んだ活動にしていくか検討が必要。 ■ＣＳＷによる相談会 毎週月曜日 13時30分～15時30分　サロン幸福亭ぐるり 毎週水曜日 13時30分～15時30分　スカイマンションＡ棟103 地域の方と顔が繋がっていくことで、地域の情報やニーズキャッチに繋がっている。サロン幸福亭ぐるりでは、自殺や孤独死についての情報提供、高齢者に関する情報が多く入ってきている。スカイマンションでの相談会では、地域のイベント情報やこどもに関する取り組みの情報が入ってくることが多い。 （課題） ・決まった方しか来ないため、ニーズキャッチの限界がある。 ・こぶし町や並木２・３丁目でのニーズを拾えない。

CSWがこれから取り組みたいこと

①並木8丁目での住民懇談会

（並木８丁目こども懇談会）
ぽかぽか広場に参加しているこども達が主体となり、こども食堂に来るようになる前、こども食堂に来るようになった後の自分の生活の変化を話してもらい、こども食堂が毎日開催されるとどうなるかなど話し合いを行いたい。その後に、こども達から保護者・地域住民に対して「地域がこうなったらいいな」と語ってもらい、懇談を行うことで多世代が参加できる地域づくりのきっかけにしていきたい。

②並木食堂の開催

①こども会議をきっかけに、ニュータウン・県営住宅・市営住宅の住民が中心となって、まちづくりセンターと県営団地の集会所活用した誰でも食堂を実施したい。中央小学校の前の道路を挟んだ「あっちの人間」「こっちの人間」という考えがなくなるきっかけとなると良いと思う。

③グリーン並木でのローラー作戦

生活支援の組織があるなかでも孤独死が発生している。生活支援の組織の方が、家庭の庭の草が伸び放題だったことに気づき声をかけたが拒否をされ、その後関わりを取ることがなく1年後に孤独死が発覚した。声をかけた時に、困り事を相談できる相談先の情報などが伝わっていれば、もしかしたら孤独死も防ぐことができたかもしれないため、啓発を兼ねて包括やCSW、民生委員、生活支援組織の啓発を兼ねて1棟でもよいのでローラー作戦を実施したい。

補足:CSWの相談会について

相談会から地域のニーズをキャッチする場へ･･･

既に相談会を実施している地域では、CSWだけでなく地域の協力者とも連携しながら常時困り事や不安を気軽に話すことのできる仕組みを考えていきたい。その他の地域では、まずは暮らしの相談事業を開催している法人及び地域の協力者と連携しながら既存の相談体制＋αの仕組み（地域の方が話し相手として滞在する日を設ける等）を考え、相談だけでなく自分の思いを誰かに話せる場を作っていきたい。

わたしのまちの
相談窓口

（コミュニティソーシャルワーク担当）

松井地区 070-2173-0221	吾妻地区 070-3876-0225	新所沢東地区 070-3876-0229
富岡地区 070-3876-0222	柳瀬地区 070-3876-0226	所沢地区 070-3876-0230
小手指地区 070-3876-0223	三ヶ島地区 070-3876-0227	並木地区 070-3876-0231
山口地区 070-3876-0224	新所沢地区 070-3876-0228	

受付時間　８：３０～１７：１５（土・日・祝を除く）

所沢市社会福祉協議会　地域福祉推進課

住　所：所沢市泉町 1861-1
　　所沢市こどもと福祉の未来館 3 階
電　話：０４－２９２５－００４１
ＦＡＸ：０４－２９２５－３４１９
メール：0041m@toko-shakyo.or.jp